

新しいタイプのセンター：惑星科学研究センター（CPS）

理学研究科教授・惑星科学研究センター長 中川義次

1. コミュニティへのサービスと人材の育成

ポर्टアイランド統合研究拠点研究棟3階に入居する惑星科学研究センター（Center for Planetary Science、略称 CPS、理学研究科附属）は、惑星科学コミュニティへのサービスと人材の育成を目指す「新しいタイプ」の国際教育研究拠点である。CPS は、研究会・ワークショップ等の公募により研究者交流の場を提供する。それらの催しを通して得られる最新知見をネット上に集積し発信する。国際スクールや様々な実習プログラム・セミナーを実施し、若手研究者の育成に努める。すなわち、CPS は特定の研究を推進する研究所ではなく、コミュニティへのサービスと人材の育成を通して惑星科学の堅牢にして豊饒な「基盤」をこの神戸の地に築きたいと考えている研究センターである(<https://www.cps-jp.org>)。

2. 惑星科学のジレンマの克服

惑星科学は、天文学・宇宙科学から地球科学・生命科学におよぶ極めて広い学問分野を包含している。すでに一つの大学や研究所がカバーできる範囲をはるかに超えている。また、惑星科学の究極の目標は、惑星および惑星系の起源・進化・多様性に関してその全体像を整合的に作り上げ、普遍化することである。しかし、その一方で科学の急速な発展は、研究の深化とともに分野の細分化をもたらし、分野間の相互理解を難しくし、学問の全体像の把握をますます困難にしている。このジレンマを克服するには、広い分野の研究者が大学・研究機関の枠を越えて協力し合うことが必要不可欠である。CPS は、全国・世界の惑星科学者に交流の場と機会を提供し、惑星科学の困難の克服と全体像の把握を目指している。また、これらの人々の協力を得て、自己の専門分野を越えた広い視野を持つ研究者の育成を目指している。

3. CPS の活動

上述の問題意識にもとづき CPS は現在、次のような活動を展開している：

- 国際交流事業：毎年国内外から著名な講師を招聘し、世界の大学院生・若手研究者を対象にして、惑星科学の最先端講義の提供と国際交流の促進を目的とし国際プラネタリスクールを開催している(写真 1)。また、院生・研究者の海外派遣、さらに国際研究集会・ワークショップ等の開催をセットにした海外研究者の受け入れ企画を公募し、研究者の国際交流を支援している。
- 国内スクール事業と社会交流活動：国内大学院生・若手研究者を対象にした多数のスクール・実習・セミナー等を公募し実施している。若手研究者間の自主的教育活動を奨励・支援している。また、サイエンスカフェ(写真 2)による研究成果の紹介も行っている。さらに企業人との懇談の場をもち、企業の協力や支援の獲得、キャリアパスの拡大を目指

した活動を行っている。

- ネット図書館事業：上記活動において提供される講演や発表を録画し、動画と講演・発表資料を組み合わせたマルチメディアコンテンツをウェブ上に公開している (<https://www.cps-jp.org/~mosir/pub/>、写真 3)。IT 技術を活用し、国内外に分散する研究者の提供する情報を集積・公開し、分野の俯瞰的横断的な教育研究活動を奨励している。

4. CPS を支える若い人材

上に述べた活動を役割別に 5 つのコーディネーショングループ(CG)と呼ぶ集団（教育研究 CG、基盤 CG、国際連携 CG、社会交流 CG、将来構想 CG）が分担しているが、その主体は、文科省の競争的資金グローバル COE プログラム（後述）で雇用されている特命・特任准教授・助教・研究員・リサーチアシスタント(RA)たち若手研究者・大学院生である。これらの若い人々が新鮮な発想をもって CPS の運営や活動に主体的に関わることは CPS の活力を維持・増進するのに必要であるだけでなく、若手人材の育成それ自体にとってもきわめて重要な要素となっている。CPS では、若手の運営・活動への関与がすなわち人材育成にもなっている。若い研究者が CPS に関わることにより、自分の研究の推進だけでなく、研究環境の改善整備、周りの人たちへの協力、コミュニティへの奉仕といったことにも関心の持てる学問的にも人間的にも視野の広い人材が育つことを期待している。

5. CPS へのご支援

CPS は理学研究科内に発足して 4 年目の今春、ポートアイランドに新築された統合研究拠点研究棟の 3 階全フロアが与えられて入居することが出来た。本稿の末尾になりましたが、福田学長はじめ、関係のみなさまに心よりお礼申上げる次第であります。CPS は現在、文科省グローバル COE プログラム「惑星科学国際教育研究拠点の構築」の実施拠点として活動し、運営経費はこのグローバル COE プログラムの交付金でまかなわれています。グローバル COE の採択、統合研究拠点研究棟への入居と今のところ幸せなスタートを切った CPS ではあるが、2 年後にはグローバル COE プログラムは終了し、その後の CPS の財政的見通しは実はまだ立っていない。私どもは CPS の継続にあらゆる努力を惜しまぬ覚悟であります。同時に、みなさま方の幅広いご支援を今後ともお願いする次第であります。CPS を世界の惑星科学者のだれもが一度は訪れてみたいと思う研究センターに育て上げたいと願う次第であります。

写真1：国際プラネタリスクール



写真2：サイエンスカフェの様子



写真3：ウェブによるセミナー動画の公開

